

- 第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日
講師/佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長
- 第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師/久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
- 第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師/鷲沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事
- 第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師/清水隆史さん フォトグラファーほか
常盤昭二さん CMディレクター
- 第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師/虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト
- 第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師/竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長【一級建築士】
- 第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督
- 第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師/荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト
- 第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師/松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授
- 第10回 命のバトンを渡す「ピオトップ」/長野市をピオトップワークシティに 平成19年11月14日
講師/松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
- 第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師/浜このみさん クッキング・コーディネーター
- 第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師/角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長
- 第13回 アメリカ生活で感じたあれこれー変化に対して前向きになることの大切さー平成20年8月19日
講師/針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
- 第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師/水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長
- 第15回 長野ハルセイロー 優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師/バドゥ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン
- 第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師/町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事
- 第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士
- 第18回 循環備蓄型の農業の実践ー宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みるー平成21年6月3日
講師/塩澤研一さん(財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役
- 第19回 郷土を包む「おやき」平成21年7月14日
講師/小出陽子さん(同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー
- 第20回 信州の伝統から生まれる食文化ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
講師/宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋
- 第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師/志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしよ/代表理事
- 第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師/薩川了洋さん AC長野ハルセイロ新監督
- 第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師/石沢一男さん(有)田舎工房 代表取締役

- 第24回 3度目につかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師/新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務
- 第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日
講師/越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属
- 第26回 Go to J〜Jを長野にーいよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日
講師/鈴木政一さん 長野ハルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長
- 第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師/千村尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ
- 第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師/川崎史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表

- 第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師/安藤長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長長野県隊長(第二次派遣隊)
- 第30回 江戸のエコロジスト 一茶 平成23年8月30日
講師/マブソン青眼さん 俳人・比較文学者

- 第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師/井上裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員

- 第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師/田幸淳男さん 信越放送取締役相談役

- 第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日
講師/飯室織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営

- 第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日
講師/相原 哲さん ながの町神輿連合会武陸会 会頭

- 第35回 長野とオリンピックレガシー 平成24年3月26日
講師/小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務

- 第36回 すべてが一丸となって「ながのの宝もの」をJへ 平成24年4月24日
講師/薩川 了洋さん AC長野ハルセイロ監督

- 第37回 信州の野鳥たち 平成24年8月31日
講師/小宮山義光さん 日本野鳥の会長野支部会員

- 号外 門前まち花遊歩 一牛に引かれて善光寺参りー 平成24年9月1日

- 第38回 見る 学ぶ 体験する 自然農法 平成24年9月27日
講師/塩澤研一さん 農業生産法人水輪ナチュラルファーム代表取締役/(財)いのちの森文化財団 副代表理事

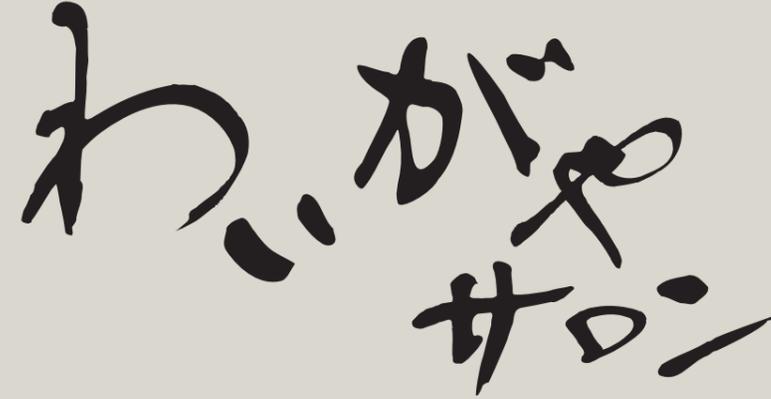
- 第39回 善光寺表参道と中心市街地のWi-Fi計画 平成24年10月25日
講師/俣田達勇さん NTT東日本 長野支店長

- 第40回 しなの鉄道長野以北延伸と営業戦略 平成24年12月6日
講師/山田 隆さん しなの鉄道(株) 専務取締役



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp



通信

Vol.41
2013.3



「おぶせ藤岡牧夫美術館」

NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所

第41回 自然との共生

平成25年2月28日(木) 18:00~20:00

講師／藤岡牧夫さん イラストレーター・絵本作家

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911

ことのほか厳寒だった冬もようやく終わりを告げそうな2月末日、今年初めてのわいがやサロンが開かれました。お招きした講師は「人と自然とのつながり」を一貫してテーマとした作品を描いている藤岡牧夫さん、まずは信濃毎日新聞夕刊に連載したイラスト&エッセー「風に吹かれて～信州の四季～」の映写・朗読会の形をとって始めました。

朗読—「風に吹かれて」

「写生」 ついこの間まで、冬枯れ色だったこの河原も、今日は春の神様が塗った春の色でいっぱい。

天気も良いのでみんなで写生をしようと思い思いの場所に陣取った。僕は白いパレットを広げ、黄色や赤の絵の具をいつもより多めに落とすと、それだけでワクワクした。

(中略)春のおたより菜の花黄色 桃の畑はピンクのおたより 山に残る白い雪、春が消して冬のおたより

(続いて、「タンポポの綿毛」「キツツキの秘密」「雨の池」「泡吹きガニ」「コンサート」「ゼンマイヒコーキ」「コスモスと初雪」「丸い雪」「隠れていた春」を朗読、春夏秋冬～春を一巡。)

「風に吹かれて～信州の四季～」は2002年から8年間、信濃毎日新聞の夕刊に連載したものです。武田徹さんのラジオ番組に出ましたとき、「風……」のエッセー部分を朗読してくださいました。「面白いから朗読会をやりましょう」という武田さんの発案



信濃毎日新聞連載「風に吹かれて～信州の四季～」より「写生」 画材はアクリル絵の具



同「ゼンマイヒコーキ」さわやかに晴れわたった秋の日に、僕らはゼンマイヒコーキに乗った。…



ふじおか まきお 1949年、長野県木曾郡上松町に生まれ、小5から高校まで長野市。多摩美大卒業後は東京を拠点にイラストレーターとして広告等で活動し、1999年に絵本を初出版。2011年Uターンし2012年春、小布施町雁田に自身の美術館を開館。長野市在住

により須坂メセナホール等で朗読会が実現しました。そんなわけで(人前でお話することが得意でないものですから)今日も朗読をさせていただきます。

それぞれのきっかけ

ずっと東京を拠点にしてグラフィックのイラストの仕事をしてきました。いつかこちらに戻ってこよう、そのタイミングは60歳あたりか、と考えていたが一昨年長野に戻ってすぐ、「おぼせ

中国美術館」の館長さんから、私の絵の美術館にしたい、というお話があり昨年実現しました。

父が営林署に勤めていた関係で森林に囲まれた木曾谷生まれです。夏は裸足で駆け回っていた子どもが急に都会の長野市に出てきてカルチャーショックを受けたのが昭和30年代。デパートがあることに驚き、エスカレーターに恐る恐る飛び乗ったものです。官舎には教育ママゴンが結構いて、早朝、ラジオ体操の時間から勉強させられている子がいれば、ピアノやヴァイオリンの練習が聞こえてきてびっくり。暗くなるまで外で遊んでいられる木曾に帰りたいと思いましたね。あまり経済と関係ない話ですみません。(笑)

高校では運動部に属していましたが、絵は好きで、ある日、隣のお姉さんが美大に入ったというので絵を見せてもらった、自分でも入れるんじゃないかなと思って!?そんないきさつで美大へ。

当時はイラストレーター全盛の時代で、宇野重喜良、横尾忠則、山藤章二らに憧れました。しかし、イラストで自分のスタイルを作るのはなかなか難しいことから、広告の仕事なら何でもやりました。

そのうちバブルがはじけ、仕事そのものが極端に減ってきました。もし仕事が続けられなくなったとしても——1回ぐらい自分の個展をやろう! やめるのはそれからだ、と心に決めました。では何を描くか、となったときに浮かんだのが、いつも「いい生き方だな」と見ていたカヌーイストの野田知佑さんです。

皆さんもご存知だと思いますが、「BE-PAL」などの雑誌への寄稿文(組み立て式のカヌーで国内外の川を犬のガクを友にして海まで下っていく)に「ほー、今度はアラスカか」などと疑似体験させてもらっていたんですね。野田さんをモデルにしている写真家はいましたがイラストは見ない。カヌーと犬と男、は絵になる!子ども時代を思い出し、「そうだ、笹舟に野田さんを乗せて描いてみよう!」と描き始めたのでした。

49歳、再スタートを切る

仕事の合間をみて描きため、3年ちょっと経ったころ周囲に見せてみるといい反応、広告関係の人も「おもしろいね」。そして出版社の方が野田さんに了解をとってくれ、…最初の絵本『笹舟のカヌー』(1999年、小学館)が出ることになったのでした。

50歳までに何とかしないとイケないな、と内心考えていましたから、思いもよらずと言うのは違うかもしれませんが、49歳で再スタートを切り、以後、教科書の表紙絵を担当させていただいたり、幼児用絵本『イルカのトリトン』など、イラストレーター・絵本作家として続けていくことが出来ました。

最初の絵本(『笹舟のカヌー』)を出してすぐ、その原画展を銀座マリオンで催したとき、小学館の編集の方から出来るなら原画を売らないで頑張る、という一言をいただきました。暮らしは大変でしたが、そのアドバイスを守ったことが、後々役立って今日の自分につながったと思います。縁ある中野市で原画展を何回か開け、そうして自分の作品を常設展示する「おぼせ藤岡牧夫美術館」開館(2012年春)と漕ぎ付いたのですから。

創作のベースは信州で培ったこと・風景

2002年10月からの信濃毎日新聞への連載は、エッセーも、という依頼でした。これまで文章を書くなんて経験ゼロでしたが、ストーリーづくりに挑戦してみると、絵を描くのと全く違って、おもしろかったですね。真っ白い紙に向かうと書くにしろ、描くにしろ、何となくいい——そんなことをずっとしてきました。

20年来の絵のテーマは「人と自然とのつながり」、ベースになっているのはやはり子どものころに住んだ木曾谷で遊んだこと、そして長野市周辺の山、川、里の風景です。

フリーターキングに移り、藤岡さん描く信州の原風景や善光寺などのイラストをNUPRIの広報・長野市の活性化等に活用させていただくのはどうか、など今後検討の意見も出されました。



野田知佑氏との共著3作目の絵本『ささ舟カヌー 千曲川スケッチ』(2011年、平凡社)。小さな登場人物たちがさまざまな体験をするサマを描くのは、「幼少期に親しんだ『ガリバー旅行記』や『一寸法師』などの影響が大きいと思う」と藤岡さん



単なる郷愁やファンタジーとも異なる絵(と、ゆったりした朗読・音楽)が、出席者の心身をときほくしました